

令和7年(2025年)

ふじやま英美 第1回 定例会質問

南熊本快速バスの試験的運行の将来について

① 市電新水前寺駅での乗客積み残しの現状

国土交通省の調査によると、豊肥本線の朝夕ラッシュ時の混雑率は135%に達し、減便や編成車両数の減少に加え、TSMCをはじめとする半導体関連企業の集積が混雑をさらに加速させています。第2工場の整備も進み、今後さらなる混雑悪化が懸念されます。また、熊本市電との結節点である新水前寺駅も混雑が深刻で、1日乗降客数は9,300人を超え、ラッシュ時には積み残しが発生しています。この状況の対策として、昨年11月から3両編成の新型車両2編成が導入されましたが、現在の混雑緩和にどの程度効果を発揮しているのか、交通事業管理者にお尋ねします。

交通事業管理者
答弁

積み残しについては、顕著な朝7時～9時の時間帯に3両編成車両等輸送力の高い車両を投入するとともに同停留所始発を2本運行させている状況であり、さらなる輸送力の強化に努めていきたい。



積み残し解消、南熊本駅の拠点性向上

② 実証実験が成功した場合の今後の取組について

新年度の予算で計上された、JR南熊本駅と中心市街地を結ぶ快速バスの実証実験には大いに期待しています。この実証実験が成功すれば、新水前寺駅の混雑緩和や南熊本駅周辺の賑わい創出が期待されます。そこで伺いますが、この実証実験が成功した場合、次にどのような取り組みを計画されているのか。具体的には、辛島町電停から南熊本駅への市電延伸について再検討すべきだと考えますが、市長の見解をお聞かせください。

市長答弁

半導体関連産業の集積に伴う渋滞悪化を受け、JR豊肥線の機能強化と沿線まちづくりの重要性が増しています。新水前寺駅の混雑緩和策として、高架下バスベイ設置の検討と併せ、南熊本駅と中心市街地を結ぶ快速バスの実証運行を進め、新たな人流の創出による南熊本駅の拠点性向上、南熊本駅を経由するバス路線の合理化、その効果を多面的に波及されることなどを考えています。

事業のビルド・アンド・スクラップについて

① 廃止・縮小された主な事業とその根拠

大西市長は将来的な小中学校の給食無償化を目指し、その財源について「ビルド・アンド・スクラップ」の方針を示されています。新年度予算案では、新規事業25事業(約11.1億円)、拡充事業49事業(約152.2億円)が計上され、一般会計は前年度比4.5%増の4,193億円と過去最高となりました。しかし、人口減少が進む中で、市の財政状況に不安を抱く市民もいるかもしれません。限られた財源の中で新たな事業を進めるには、役割を終えた事業や効果の薄い事業の廃止が必要です。そこで、新年度予算編成において廃止・縮小された主な事業とその理由、さらに、それにより捻出された財源の総額について、財政局長にお尋ねします。

財政局長
答弁

事業の廃止や見直しは、効果的な事業への転換や統合、市民ニーズの変化に対応するために行われました。新年度予算では、老朽化した小学校のプール更新を民間活用や共用化で見直し、市民税滞納者への催告方法を効率化するなどの取り組みを実施。これにより一般財源約5億5000万円を削減し、こども施策の推進や交通渋滞解消などの重点課題への対応に充てることができました。
私の民間プール等の利用提案で改善・改革が進んでいます。プール更新見直しで1億5千万円減額。



老朽化した市内の小学校のプール

② 廃止・縮小事業に関わる職員の評価システム

予算案の公表に際し、新規事業だけでなく、廃止・縮小事業についても丁寧な説明を行うことで、議会での議論が深まり、市民の理解も得られると考えます。特に、予算決算委員会説明資料には廃止事業の記載がなく、別途資料の作成や説明の充実を要望します。また、廃止・縮小に関わる職員の努力を正當に評価するため、新たな人事評価制度の導入を提案します。本市の人材育成方針にも資するものと考えますが、市長の見解をお尋ねします。

市長答弁

今後、持続可能な行財政運営を推進するため、事業の廃止や縮小を実行できる職員の育成と実績の評価が重要です。令和6年9月の「熊本職員成長・育成方針」改定に合わせ、令和7年度から新たな評価方法を導入。困難な業務への挑戦や業務最適化能力を評価し、実績のある職員を高く評価します。

町内自治振興補助金交付規則等の見直し状況について

① 廃止・縮小された主な事業とその根拠

昨年、第2回および第3回定例会で指摘した町内自治振興補助金の問題について、包括外部監査人からの指摘に対しても交付の目的の整理ができていない市執行部の対応でした。昨年12月には補助対象事業の明確化や会計の透明性を確保するためのガイドライン策定が発表されました。新制度は1月から説明会を開始し、7年度から施行予定です。自治会からの反応や最終的な改正内容について、文化市民局長にお尋ねします。

文化市民局長 答弁

令和5年度の包括外部監査を受け、町内自治振興会補助金の見直しを行い、令和7年4月から施行予定です。対象事業は地域活性化や安全活動に絞り、経費の対象を明確化。補助金の算定方法も世帯数に基づき見直しました。1月から自治会役員を対象に説明会を実施し、概ね理解を得ましたが、7年度には申請書と共にわかりやすい資料を送付し、引き続き丁寧な説明を行います。



私の質問でガイドラインが策定されました

地域の問題

安全・安心な道路環境整備について

① 熊本高森線における無電柱化の進捗について

安全・安心な道路環境整備についてお尋ねします。自転車利用者の増加に伴い、歩道の幅員不足や障害物(街路樹等)の問題が深刻化しています。特に、県道熊本高森線における無電柱化事業について、設計に着手されたと昨年答弁がありました。工事着工の見通しをお伺いします。また、無電柱化と合わせて、熊本市街路樹再生計画に基づいた樹木の更新や再配置の実施についてもお尋ねします。



県道熊本高森線
肥後銀行秋津支店前道路
電線地中化は防災、景観上重要!

都市建設局長 答弁

主要地方道熊本高森線の無電柱化事業は、花立2丁目交差点から小楠公園付近までの1.1km区間で詳細設計と関係機関との調整が進行中であり、令和8年度の着工を目指しています。街路樹再生計画に基づき、安全・景観面を考慮した樹木の撤去や更新が進められており、無電柱化区間でも移植や捕植を行い、最適な配置を進めております。

② 通学路の安全対策について

桜木小学校周辺の「ゾーン30プラス」指定について、指定の具体的理由やデータ、実施予定の具体的対策内容とその効果についてお伺いします。また、指定にあたって地域住民や関係者との合意形成はどのように進められるのか、都市建設局長にお伺いします。

都市建設局長 答弁

桜木小学校周辺地区では、ゾーン30プラスの対策として、走行速度や抜け道利用の抑制を目的にパンプ設置やカラー舗装を実施予定です。自治会や小学校、交通管理者と協議し、令和7年度に着工し、令和8年度末に完了を目指します。これにより、通学路を含む生活道路の安全確保が期待されます。



安心・安全確認が期待されます

③ 第2空港線桜木6丁目交差点の改良について

桜木6丁目交差点の改良について、第二空港線と小池竜田線の交差点は慢性的な渋滞が発生し、周辺道路にも影響を与えています。改良の着工時期と完了時期についてお伺いします。また、交差点改良の手法として、用地取得や現道範囲での区画調整、信号制御の最適化などが考えられますが、どの手法を採用する予定か都市建設局長にお尋ねします。

都市建設局長 答弁

桜木6丁目交差点は慢性的な渋滞が発生しており、昨年末の県市調整会議で3年以内に対策を講じる箇所として位置付けられました。先日、区画線の引き直しと右折滞留延長を実施し、今後、第二空港線全体の交通状況を見ながら効果的な対策を検討し、渋滞緩和を目指していきます。



渋滞緩和が期待されます

桜木・花立地区の浸水対策について

桜木・花立地区では、集中豪雨による浸水被害が懸念されています。特に桜木小学校周辺では、浸水により車両が立ち往生し、登下校時に危険な状況が発生しています。これまで鶯川の改修が進められ、治水安全度が高まりましたが、上流域の浸水対策にも力を入れる必要があります。令和5年第3回定例会で、雨水バイパス管の工事に着手したとのことですが、現在の進捗状況について伺います。

都市建設局長 答弁

鶯川では、河道拡幅や鶯川調整池の貯留量増加など治水対策が進行中で、令和5年度末には鶯3号橋の改修が完了しました。桜木・花立地区の浸水対策として、雨水バイパス管の工事が順調に進み、本年度梅雨時期までに完成予定です。さらに、桜木小学校周辺の浸水対策として、令和6年9月に着手した雨水バイパス管工事も進めてまいります。



浸水対策解消が期待されます